

2021 年度研究計画

上村剛（ブリテン帝国思想史・グローバル思想史）、崎濱紗奈（沖縄・日本近現代思想史）、外岡千佳（イギリス政治思想史・比較文明思想史）、西田尚輝（フランス社会思想史・比較福祉国家研究）、馬路智仁（帝国・国際政治思想史、代表者）、古田拓也（イギリス政治思想史・政治思想史方法論）、矢島ショーン（ドイツ・日本経済史、経済思想史）、柳愛林（アジア政治思想史・比較思想史）を中心メンバーとするキャラバン・プロジェクトを組織する。

本年度は、上記メンバーを中心にオンライン研究会を定期的で開催し、このプロジェクトの土台を固めることを主眼とする。具体的に行う作業は以下の四つである。

- (1) 最終的に Routledge から編著本を刊行するに向けての本の全体構成・枠組みの構築。
- (2) その全体構成・枠組みと各メンバーのチャプターがどのように有機的に結びつくか、また各チャプター間がどのように連結するかについての検討（各メンバーによるペーパー執筆の開始も含む）。
- (3) 同じくその全体構成・枠組みにフィットする海外協力研究者の再選定、および研究協力（i.e. ペーパーの寄稿と海外学術キャラバンとしてのセミナー開催）に関する依頼。
- (4) そうした海外研究協力者の所属大学へ（次年度以降に）海外学術キャラバンを実行するにあたってのスケジュール調整。

これらを 1 カ月～2 カ月に一度開催する定期研究会、および Zoom チャットルームなどを介した日常的コミュニケーションを通して実施する。これらは最終的な編著本の公刊と 2 年目～3 年目にかけて行う予定の海外学術キャラバンを成功裏に導くための足場・土台であり、本年度において入念に実施したい。

本年度は海外渡航を行わない予定である。配分された助成金は主として、メンバーが各々のトピックを発展させ、チャプターを充実させるための物品費（資料・文献費）として用いる予定である。